

公表

事業所における自己評価総括表

○事業所名	障がい児通所支援事業所 ぼのぼの		
○保護者評価実施期間	令和7年1月10日 ～ 令和7年1月26日		
○保護者評価有効回答数	(対象者数)	14名	(回答者数) 7名
○従業者評価実施期間	令和7年2月1日 ～ 令和7年2月4日		
○従業者評価有効回答数	(対象者数)		(回答者数)
○事業者向け自己評価表作成日	令和7年2月17日		

○ 分析結果

	事業所の強み（※）だと思われること ※より強化・充実を図ることが期待されること	工夫していることや意識的にを行っている取組等	さらに充実を図るための取組等
1	・送迎療育を実施していることで、お仕事等で療育に通えないご家庭にアプローチ出来ている	・送迎療育を実施していることにより、ご家族の要望に寄り添いながら、子どもたちへの療育が定期的に受けれるよう利用日を調整出来ている	・お仕事等で忙しく、直接療育を見る機会が少ない保護者さんへ療育後の報告等でお子さんの成長や家庭でのお役立ち情報等を含んだ内容を考え、お子さんの成長が実感出来ると共に、ご糧でもお子さんの成長が促せるようなアドバイスが連絡、報告で出来たらと思っている。
2	・保育所等訪問を実施しているので、定期的にお子さんの様子を現地で確認が出来ると共に各保育園、幼稚園と密に連携が取れる体制が出来ているので、当事者の課題解決の連携が図れ児童発達支援事業に還元出来ている。 ・保育園・幼稚園移行時に素早く連携が取れる。（情報提供等）	・ぼのぼのとの情報共有を密にすることで、保育園・幼稚園とぼのぼのでの各子どもの発達状況をお互いに把握し、同じ意識、目的にに向かって連携が取れるようにしている。 ・在宅の子が保育園・幼稚園等に入学する際（検討の際）により良い情報提供を双方に提供することで、スムーズな移行の実現を目指している。	・お互いに子どもの育ちを支えるように、専門知識の獲得の為保育士向けの研修会や、発達系の研修会の案内等をしていく。
3	・「楽しくなくちゃぼのぼのじゃない」を合言葉に、「楽しみの中で伸びていく子ども、遊びの中で輝く子ども」に近づくように各自にあったプログラムを計画し実施している。 ・ぼのぼのは楽しい	・各自の好きな事、得意な事を中心に活動を計画している。 ・自分で出来た時の喜びや達成感が味わえるように支援の量は調整している。	・各職員のスキルを上げることで、より幅広い子どもの療育をカバーできるようにしていきたい。 ・一人一人が輝ける場の提供も一緒に取り組んでいく。

	事業所の弱み（※）だと思われること ※事業所の課題や改善が必要だと思われること	事業所として考えている課題の要因等	改善に向けて必要な取組や工夫が必要な点等
1	・各職員のスキルアップ	・ぼのぼのの職員学習に対する時間が少ない。 ・法人内の部署移動があるので、新しく来た職員に関しては0からの出発になってしまう。	・ぼのぼのの学習システムのマニュアル化をし、スキルの定着率に応じて、業務内に学習ができるシステムが出来ればと考えている。
2	・各小・中学校・支援学校の長期休暇時に放課後等デイサービスへ人員が取られてしまうので、ギリギリの人数での療育になってしまっている。	・人材不足はどこも一緒であるが、普段の手厚い児童発達支援の実施に比べたら手薄に感じてしまう。（保護者の方からもそのような意見を頂戴している）	・人材の確保を今後も続けていく中で、児童発達支援と放課後等デイサービスのバランスが取れた事業運営を模索していく。
3			